



平成30年5月15日

各 位

会社名 旭ダイヤモンド工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 片岡 和喜
(コード番号 6140 東証第1部)
問合せ先 取締役管理本部長 鈴木 徹
TEL (03) 3222- 6311

特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期決算(平成29年4月1日～平成30年3月31日)において、下記のとおり固定資産の減損損失に伴う特別損失を計上することとなりましたので、お知らせいたします。

記

1. 減損損失を計上した資産グループの概要及び減損損失の金額

場所	用途	種類	金額
千葉県長生郡長南町 他	電着ダイヤモンドワイヤ製造設備	機械及び装置他	2,451百万円

2. 減損損失を認識するに至った経緯

当社グループは、管理会計の区分をもとに、概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位にてグルーピングを行っております。遊休資産については、それぞれの物件ごとに1つの資産グループとしております。また、本支店及び厚生施設については独立したキャッシュ・フローを生み出さない事から共有資産としております。

第4四半期連結会計期間において、太陽電池市場の急激な悪化による太陽電池価格の下落に伴い、電着ダイヤモンドワイヤ市場において、需要の軟化、供給過剰状況及び価格の急激な低下が発生したことにより、ダイヤモンドワイヤの受注数量が減少いたしました。このため同製品での将来の収益性について投資額に対する回収可能性を検討いたしました。その結果、投資額の十分な回収が困難と見込まれるため、電着ダイヤモンドワイヤ製造設備に係る資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスとなる見込みのため、零と評価しております。

3. 業績に与える影響及び今後の事業展開

本件につきましては、本日公表しました「平成30年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

また、電着ダイヤモンドワイヤ事業に関しましては、用途開発を進めるなかで、一層の高品質化を図り、事業を継続してまいります。

以上